



【ちぎり絵「赤富士」】山梨県障害者文化展「ふれあい賞」受賞作品

精神科デイケア利用者共同制作作品

■平成21年度を迎えて

財団法人山梨厚生会 理事長 有泉 憲史
山梨厚生病院 院長 千葉 成宏

■山梨厚生病院の精神科医療特集

- …… 当院の精神科医療・医局の紹介
- …… 当院の精神科入院部門の紹介
3-1病棟・3-2病棟・3-3病棟
3-4病棟・3-5病棟
- …… 当院の精神科リハビリテーション部門の紹介
山梨厚生グループホーム・精神科デイケア
精神科作業療法室・就労支援事業所「ひらしな」

■心理室・総合相談センター

■循環器検診車

■平成21年度新入職員紹介



【ちぎり絵「桃源郷」】

■ 編集・発行 ■

山梨厚生病院 広報委員会
TEL 0553-23-1311
URL <http://www.kosei.jp/>

平成21年度スタートにあたり

財団法人山梨厚生会 理事長 有 泉 憲 史



平成 21 年度がスタートしました。(財) 山梨厚生会は、今年度 15 名の新入職員を迎えました。

新しい一步を踏み出す期待と新しい環境に対する不安の中で、彼らにしかないすばらしい輝きを持った新人たちです。普段、大変厳しい環境で医療に従事している私たちも、この時期には彼らに対する祝福の気持ちでいっぱいになります。

医療の現場は決して単純ではありません。いろいろな困難に直面することがあります。人的スタミナの問題・人手不足も確かにありますが、処置が遅れば人命にかかわることもあります。医療訴訟が増えています。リスクの高い、一步踏み込んだ治療が必要なこともあります。医療というものが持つ二面性と常に対峙しなければならない私たちの仕事は、「その人にとって、どの治療法・投薬が最良なのか?何がより適切なのか?」を、「医学的な専門知識や技術だけでなく、最終的には自己の良心に基づいて判断していく」ということの積み重ねです。「人として・医療人としての良心を一番大切にしていきましょう。」と入職式で新入職員の皆さんにお話しました。

全ての職員がこの一点に心を一つにし、輝く将来に向けてこの困難な時を乗り越えていきましょう。

今年度、山梨厚生病院が目指すもの

院 長 千 葉 成 宏



世界的経済不況にもどうやら上昇の兆しが見え始めているように思われます。一方、医療の分野では「医療崩壊」という言葉が公然と使われ、県内でも病院医師の不足や公立病院の存続がしばしば話題になっています。

このような医療の現状を立て直すべく、国は昨年6月に

① 医療従事者の数と役割 ② 地域で支える医療の推進 ③ 医療従事者と患者・家族の協働を3本柱とする「安心と希望の医療確保ビジョン」を提示しました。また、構造改革の名のもとに行われてきた医療費抑制政策についても、最近

は転換が必要と言われるようになってきました。

私たちは、これらの医療状況を念頭において、自分たちが住む地域の医療を守ることを第一に考えています。一人一人の患者さんが安心して治療や看護を受けられるように

- ①「医療の安全を更にすすめること」
- ②「地域全体で医療を担っていくためのネットワークを作り、強化していくこと」
- ③「人材の確保が厳しい現状をにらみ、職員の離職を防ぐために働きやすい環境を作ること」
- ④「省エネをすすめ、資源のムダを減らすこと」

等を今年度の目標としています。

これらのことは、私たち病院職員の努力だけで出来るものではありません。地域の皆さん、市町村をはじめとする関係諸機関の皆さん、そしてなにより一人一人の患者さんのご支援をいただきながら進めていきたいと思っています。



山梨厚生病院の 精神科医療を紹介します!

精神科部長 佐藤 佳夫

当院の精神科病棟は5階建ての3号館にあり、5病棟・259床を有しています。精神科単科病院の中では中位の規模ですが、総合病院のひとつの診療科としては大きな方だと思います。

病棟は急性期閉鎖病棟、慢性期閉鎖病棟、準開放病棟、開放病棟、そして身体合併症病棟となっています。さらに精神科医療はチーム医療が基本であり、「医局」「外来」及びこれからご紹介する「精神科作業療法室」「精神科デイケア室」「臨床心理室」「ひらしな(就労継続支援事業B型)」「総合相談センター」と多くの部所から成り立っています。事務、薬局、臨床検査など一般の診療科と重複する部署を除いて100名近くの職員が、精神科運営会議を中心として各委員会やミーティングの中で情報を共有し、日夜、質の高い精神科医療を目指して頑張っています。

精神科医局は、現在5名の常勤医と山梨大学から派遣されている1名の非常勤医で構成されており、医局会、ケースカンファレンス、講演会、研修会を通して、変わり行く精神科治療のレベルアップを図っています。当院で治療している精神疾患としては、中毒性疾患(アルコールや薬物等)以外はほとんど対象になりますが、とりわけ統合失調症の患者さんが最も多く、急性期から社会復帰まできめ細かい入院を中心とした治療が行われています。また気分障害やパニック障害などの患者さんも、総合病院精神科ゆえの受診のしやすさもあって多く、外来を中心としてレベルの高い治療を行っています。

さらに当院精神科の大きな特徴である身体合併症(精神疾患+身体疾患)の患者さんの治療では、県内唯一の病棟ということで県内のたくさんの病院から診療要請があります。主に認知症、統合失調症の患者さんが多く、精神・身体両面の治療を担っています。内科、外科など一般科の専門医による質の高い治療と精神科医師の連携により、難しくリスクの高い身体合併症患者さんの治療が、診療科の垣根を越えスムーズに行われています。

精神科、特に総合病院の精神科治療は、日毎にニーズが高まり守備範囲も広がり、より複雑に難しいものとなりつつあります。また例にもれず「総合病院だけ精神科医師数は減少している」という現実もあります。しかしこうした厳しい状況下でも常に前向きにあるべき姿を模索し、当院だからこそ出来ること～総合病院としての質の高い治療と単科精神科病院にもひけをとらないゆったり感を合わせ持った精神科治療～を実践していきたいと思っています。

【精神科医局スタッフ】



◀ 後列左から

- ・外岡 雄二(非常勤; 精神保健指定医)
- ・北原 裕一
- ・岡本 太郎

◀ 前列左から

- ・小澤 政司(医長; 精神保健指定医)
- ・佐藤 佳夫(部長; 精神保健指定医)
- ・小倉 淳(精神保健指定医)

～精神科入院部門を紹介します～

思いやりと個別性を大切に共に悩み、喜ぶ看護を

3-1病棟師長 古 屋 妙 子

当病棟は、精神科急性期病棟として、治療・休息・リハビリを目的とした閉鎖処遇の病棟です。病床数 48 床（観察室1）、保護室 3 床の男女混合型で 15：1（患者さん 15 名に対し看護師・准看護師 1 名以上）の看護体制をとっています。「固定チームナーシング継続受け持ち制」で、入院から退院まで受持ち看護師を中心としてチームで看護を行っています。患者さんの個別性を重視し他職種と連携しながら、患者さんが心身ともにゆっくり安心して安全に療養できる環境と、患者さんのニーズに応えられる看護を提供しています。

- ・ 統合失調症クリニカルパス・クライアントパスを活用し、他職種とともにパスミーティングで目標の達成状況を話し合い、段階的に必要な援助を確認しながらケアを提供しています。
- ・ 受持ち看護師が担当し他職種と連携しながら、退院前・退院後訪問を実施し、退院後の生活を考えた支援を行なっています。
- ・ 統合失調症の患者さんに対して、薬剤師と一緒に4回1クールの服薬教室を実施し、病気や薬の理解を深めることで退院後の服薬継続・再発予防につなげています。
- ・ 毎週担当の看護師を中心に気分転換・社会性の獲得等を考えた病棟レクを実施しています。季節に応じた行事も楽しんでます。
- ・ 症状が安定してきた患者さんは、社会復帰を目的に単独散歩に出ています。売店で買い物をしたり気分転換も図ります。

平成21年度の病棟目標として、以下の3点を掲げました。

- ① 安全で快適な療養環境を提供する。
- ② アセスメント能力を高め個別性・専門性を生かした看護を提供する。
- ③ 積極的に連携の中心となりチーム医療を充実させる。

この目標の下、職員日々研鑽を重ね、患者さんと共に悩み、喜んだりしつつ療養生活を援助しています。



▲後列左から

加藤博之(看護師)山田和美(看護師)間々瀬玲子(看護師)
稲葉紀子(看護師)渡辺 昇(看護師)

▲前列左から

佐野弘昭(看護師)古屋妙子(師長)
千野友美(看護師)日原克子(助手)



▲後列左から

萩原正生(准看護師)矢崎寿仁(主任)岡博司(看護師)
藤枝鈴子(主任)熊沢久子(助手)楯野将司(看護師)

▲前列左から

古屋真由美(看護師)有泉康子(看護師)
津端飛鳥(看護師)上田すゑの(助手)

侍ジャパンにあやかって

3-2病棟師長 渡辺 久美子

当病棟は、精神疾患を持ちながら身体的治療が必要な患者さんが（例えば肺炎になってしまったとか、転倒して骨折してしまったなど）入院される県下で唯一の病棟で、身体合併病棟といいます。

スタッフは看護師・准看護師 21 名 介護福祉士1名 クラーク1名 看護助手 4 名の総勢 27 名です。安全で快適な治療・療養環境を患者さんに提供することを目標に、日々頑張っていきたいと思っはいるのですが……

未曾有の世界同時不況、この未曾有という言葉が頻繁に耳にする昨今、気分はすっかり暗くなるばかりです。しかし、久々に明るい話題がありました。そうです、WBCで侍ジャパンがやってくれました。見事に優勝し、二連覇をはたしたことです。優勝会見での原監督のコメントの中に印象深い言葉がありました。その言葉とは「武士道」です。

「武士道」とは、日本における武士の間に形成された道徳、鎌倉時代に始まり江戸時代、儒教、特に朱子学に裏付けされつつ発展し、明治維新後、国民道徳として強調された。主君に対する絶対的忠節を重視し 犠牲 礼儀 質素 儉約 尚武などが求められる土道のことです。

私達を取り巻く状況も、例にもれずとても厳しいものがあります。しかし、侍ジャパンが身をもって証明してくれたように、私達も（3-2スタッフ一同）、武士道精神でこの局面を乗り切っていこうと覚悟を決めています。今後ともどうかよろしくをお願いします。



▲後列左から

- ・長野久美子(病棟クラーク)・小林 宏治(看護師)
- ・依田 桂子(助手)

▲前列左から

- ・橋爪 悦子(介護福祉士)・渡辺久美子(師長)
- ・大森マリテス(助手)



▲後列左から

- ・古屋さつき(准看護師)・川上 陽子(看護師)
- ・鈴木 和恵(主任)・三浦 幸雄(看護師)

▲前列左から

- ・内藤 幸映(看護師)・石川貴美子(看護師)
- ・内田由美子(准看護師)

▶ 後列左から

- ・藤田さおり(看護師)
- ・風間 理恵(看護師)
- ・大羽賀 希(看護師)
- ・青木真奈美(看護師)
- ・三枝 知美(看護師)
- ・土屋多津美(助手)



◀ 前列左から

- ・作道 佳子(助手)
- ・川口友里江(副師長)
- ・丸茂 朱美(看護師)

患者様が満足する継続的な看護支援を目指して

3-3病棟師長 藤原 忠

当病棟は、休養と静養を目的とし開放処遇が特徴の精神科療養型病棟です。

病床数は48床で、主に抑うつ症状などにより休養が必要な患者さんと再発初期に環境を変えて短期休養が必要とされる患者さん、精神状態は慢性的に経過し比較的病状が安定している患者さんに、看護師・准看護師13名、看護助手4名の総勢17名のスタッフが安心・安全な環境を提供できるよう日々努力しています。

近年、疾病構造の変化に加え、高齢化による身体機能の低下、長期入院に伴う社会適応性の低下などより、これまで以上に看護の援助が必要とされています。私たち看護スタッフは、身の回りのお世話をはじめとする生活全般への指導や集団レクリエーション活動など患者さんと共に歩み、共に悩み、共に喜びながら関係を持てることの大切さを感じ前向きに取り組んでいます。患者さん個々の最終目標に向けて、他職種の協力と関係機関との連携を図りながら、地域又は施設での生活がその人らしく送ることができるように、受持ち看護師が中心に継続的な看護支援を展開しています。



◀ 後列左から

- ・花輪 亜子(看護師)
- ・広瀬 文夫(助手)
- ・辻 和子(助手)
- ・渡辺 悦子(助手)
- ・大久保正美(助手)

◀ 前列左から

- ・平山千代里(看護師)
- ・藤原 忠(師長)
- ・井上八千穂(看護師)

▶ 後列左から

- ・水越 聡子(看護師)
- ・伊藤 清香(看護師)
- ・古屋 幸子(准看護師)
- ・河野 久子(准看護師)

▶ 前列左から

- ・志村 美香(准看護師)
- ・廣瀬 桃恵(准看護師)
- ・天野志乃ぶ(主任)



指差し確認・笑顔ヨシ!

3-4病棟副師長 染谷 明美

当病棟は慢性期閉鎖病棟です。統合失調症、認知症などの患者さんが入院され、長期で療養されている方も大勢いらっしゃいます。病床数51床、隔離室2床を保持しています。

看護師・准看護師13名、看護助手5名です。30年以上のベテラン看護師から、若いお母さん、経験を積んだ看護助手などが「笑顔とゆとりの心」をモットーに楽しく働いています。日常生活援助を中心に、家庭的な雰囲気大切に患者さん一人一人に接しています。



◀ 後列左から

- ・金子きよ子(准看護師)
- ・浅川 直子(准看護師)
- ・五十嵐 元(看護師)
- ・田代 匡純(副主任)
- ・小野 時江(助手)
- ・水上 稔(助手)

◀ 前列左から

- ・三井 一江(看護師)
- ・染谷 明美(副師長)
- ・宮本みゆき(准看護師)
- ・中山しのぶ(准看護師)

▶ 後列左から

- ・久保寺京子(看護師)
- ・根津 由美(看護師)
- ・萩原 博美(准看護師)
- ・丸山多喜子(助手)
- ・坂本 トミ(看護師)

▶ 前列左から

- ・小野山智子(助手)
- ・河西 信子(准看護師)
- ・大沢 栄次(助手)
- ・野沢 好美(看護師)



【3号館全景】



合言葉は、目配り・気配り・思いやり

3-5病棟副師長 樋口 晴男

当病棟は精神科社会復帰療養型で、病床数 56 床、患者さん 3 名に対し看護スタッフ 1 名の看護配置を採っています。3号館の最上階にあり四方を見渡せる素晴らしい環境に恵まれ、南には富士山、西には南アルプスを仰ぎ、夜ともなると100万ドルの夜景も眺めることが出来る自慢の病棟です。

“年々高齢化していく患者さんに快適な療養生活を送っていただくには!” “患者さんの個性に合った看護とは!” を念頭に、年間を通し小グループでの活動を積極的に展開し、少しでも患者さんに満足していただける看護を目指しています。また、地域で生活しているグループホームのメンバーさん達の支援病棟としての役割も担っており、生活指導・健康管理・食事指導・受診状況などの訪問指導も行っています。これからも全ての患者さんのQOLを考えた看護を提供していきます。



▲後列左から

- ・松本 恵見(看護師)・小川かつみ(准看護師)
- ・丸茂佐貴子(看護師)・樋口 晴男(副師長)

▲前列左から

- ・小川 則子(看護師)・笠井 紀枝(准看護師)
- ・岡部貴美香(助手)・丸山 豊見(准看護師)



▲後列左から

- ・米澤 博志(看護師)・飯島 寿一(助手)
- ・岡 政子(師長)・牧野 春美(主任)・内田己真子(助手)

▲前列左から

- ・福田 恵子(助手)・新藤 好子(准看護師)
- ・古屋とも恵(准看護師)・田形喜代子(助手)

～精神科リハビリテーション部門を紹介します～

共同生活援助 山梨厚生グループホーム

サービス管理責任者 野 沢 舞

山梨厚生グループホームは、社会生活が可能で住居確保が困難な精神障害者に対して住居を提供し日常生活上の相談援助・指導等を行ない、障害者が地域で生活できるよう作られた施設です。

『ぶどうの家』『すずらんの家』『グリーンハウス』の3ヶ所があり、定員はそれぞれ5～6名です。

利用者は自立した社会生活を目標とし、現在合計 16 名の方が入居されています。

地域社会との交流をもちながら、その人らしく安心して生活ができるよう支援し、利用者と共に歩んでいけるグループホームを目指しています。

【グループホーム「グリーンハウス」】



精神科デイケアです

精神科デイケア室 依田 邦子

当デイケア室は、通院しながら生活にリズムを作り、グループ活動を通して対人関係や生活の中で必要な力を習得していくことを目的にしています。現在 85 名の方が登録されています。医師・看護師・臨床心理士・作業療法士などの多職種が連携し、個々の利用者が望まれる生活実現に向けて、ニーズに応じた支援や居心地のよい雰囲気づくりができればと思っています。

また、就労支援の一環として「喫茶ほっとタイム」も営業しています。開店時間は月曜から金曜の午後 12 時～1 時 30 分です。おいしいコーヒーをお出しします。是非一度お越しください。



【デイケア「喫茶ほっとタイム」】



▲左より

・河西 みき(臨床心理士)・依田 邦子(看護師；主任)・柿崎 崇(作業療法士)

精神科作業療法をご存知ですか

精神科作業療法室 古屋 豊美

精神科作業療法とは、『こころを患った方に対して、作業活動を用い、主体的な生活が送れるように、失われた諸機能の回復・維持及び開発を促す治療、訓練、指導及び援助』をいいます。この『作業活動』には、生活に必要なあらゆる活動～仕事・日常生活・遊びや余暇・創作活動など～が含まれます。

私達スタッフ作業療法士 4 名・作業助手 1 名は、利用者の方々がより良く生活するための支援が常にできるよう日々努力し、研鑽を積んでいます。



【作業療法室風景】



▲左より

・山田 司(助手)・池田恵理(作業療法士)・桑原宏和(作業療法士)・古屋豊美(作業療法士；副主任)・赤澤卓也(作業療法士)

就労支援事業所 ひらしな

所長 角田 旭

平成 16 年 8 月 3 日に開所した精神障害者通所授産施設「ひらしな」は、平成 20 年 4 月に施行された障害者自立支援法により「利用者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、利用者に対して就労の機会を提供し、生産活動等の機会を通じて知識及び能力の向上」を計るための「就労継続支援事業 B 型」の事業所として生まれ変わりました。

現在、洗濯作業（月に約 62,000 点）、清掃作業（病院内外の清掃、床ワックス掛け等）、園芸作業及び講習会、レクリエーションを取り入れた諸活動の他、一般就労に向けての支援を行っています。定員は 30 名/日ですが、35 名の方が登録され、個人の病状・体力に見合った参加をしています。



【ひらしな全景】



▲後列左から

・牧野吉邦(作業指導員)・中村美樹(作業指導員；副主任)・花輪 一(作業指導員)・山中 淳(助手)・宮川 正(助手)

▲前列左から

・角田 旭(所長)・高野 仁美(サービス管理責任者)・小沢 茂子(生活支援員)

臨床心理室って？

臨床心理室 竹居 栄子

『心理』という言葉から、どんなイメージが思い浮かびますか？

私たち臨床心理室の仕事には、大きな3つの柱があります。まず一つ目は『心理検査』で、“脳や心の様々な機能の働き具合”を調べます。主治医が治療方針を決めたり、患者さんがご自分の状態を理解する時の手がかりとして、結果をお知らせします。2つ目は、『心理療法』で、患者さんとの信頼関係を築きながら、患者さんがご自身の力で自分らしい生き方を見つけるお手伝いをさせていただきます。

最後は、『心の健康を大切に作る環境づくり』の活動で、精神科の中での役割と緩和ケアや働く人のメンタルヘルスのサポート等を病院の内外で行っています。スタッフは、これまで臨床心理士が 3 名所属（内1名は現在デイケア担当）していましたが、この4月からは、働きながら臨床心理士資格の取得を目指す新人を迎え、さらにパワーアップして、より患者さんのニーズに応えられるよう充実した活動を行っていきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



▲左より

・竹居 栄子(臨床心理士) ・河西 秀人
・初鹿 清美(臨床心理士)

心に寄り添う相談支援を目指して 総合相談センター

室長 水上みや子

総合相談センターは、これまで医療福祉相談室という名称で皆様に親しまれていましたが、平成19年1月に当院が「がん診療連携拠点病院」の指定を受けたことで、より相談支援の強化をはかるため「総合相談センター」に改編となりました。当センターにはスタッフが6名おりますが、全員が社会福祉士あるいは精神保健福祉士の資格を有しており、社会福祉・精神保健に関する相談支援に当たっています。

医療・保健・福祉の連携の中で生活者の視点にたち、患者さん・ご家族が安心して診療が受けられるよう、療養生活の不安や悩みに耳を傾け、心に寄り添いながら面接や電話相談などに当たっています。

近年の経済状況の悪化により医療費の支払い困難な方、高齢化、家庭内の人間関係、厳しい社会情勢がそのまま反映されている現状を日々目にしています。つらい現実と向かい合いつつ、相談センターを利用される皆様がホッとされ、笑顔を取り戻され「こころ」に潤いをもつただけできるよう、個性豊かな美男美女(?)のソーシャルワーカーが皆様をお待ちしています。



▲後列左から

・河西紀美子 ・志村美由紀 ・篠原 貴志

▲前列左から

・野沢 舞 ・水上みや子(室長) ・西川亜希子

循環器検診車導入

企画管理部長 小林昌彦

当院は救急医療のみならず予防医学にも力を入れており、胸部・胃部・婦人(乳癌用)各検診車を駆使し県下一円地域住民および事業所を対象として生活習慣病の早期発見・治療にまい進しています。

このたび平成20年度の競輪(財団法人JKA)の補助を受け循環器検診車を導入しました。

購入総額は36,897千円で、内補助金額は8,400千円です。平成20年12月から運用を開始しており、本格稼働時は年間6,000名程度の検診を行う予定です。

既存の循環器検診車に比べ、測定機器(心電計、血圧計身長体重計等)は全て全自動化したため、正確かつ測定時間の短縮が可能となりました。



新入職員紹介

— よろしくお願ひします —

～ 今年度、採用された15名の新人を紹介します。～



◀ 後列左より（配属先：出身校）

雨宮 健太（塩山市民病院薬局：千葉科学大）

～責任感を持ち、信頼される薬剤師を目指し頑張ります。

河西 秀人（心理室：山梨英和大学大学院）

～私のモットーは「以心伝心」です。日々新たな気持ちで頑張ります。

◀ 前列左より

小幡 朋子（医事部：三重大学）

～一日でも早く一人前になれるよう頑張ります。

丸山奈木沙（薬局：北陸大学）

～日々成長し、信頼される薬剤師を目指します。

▶ 後列左より（配属先：出身校）

原田雄一郎（1-3 病棟：甲府看護専門学校）

～患者様の思いを理解し、安心して療養して頂ける看護を提供します。

橋爪 涼（1-4 病棟：富士吉田市立看護専門学校）

～温かく思いやりのある看護師目指し、精一杯努力します。

坂本 大悟（1-4 病棟：甲府看護専門学校）

～どんな事にも一生懸命に取り組んでいきます。

▶ 前列左より

甘利 美紀（1-3 病棟：甲府看護専門学校）

～患者様から信頼される看護師を目指します。

青柳 綾子（1-5 病棟：甲府看護専門学校）

～笑顔大切に、患者様の事を第一に考える看護師を目指します。

田中 千秋（1-5 病棟：甲府看護専門学校）

～患者様に慕われる看護師になれるよう、初心を忘れず頑張ります。



◀ 後列左より（配属先：出身校）

井上 翔平（手術室：甲府看護専門学校）

～初心を忘れず、前向きな姿勢で看護に取り組めます。

小俣 美穂（2-3 病棟：甲府看護専門学校）

～業務の一つ一つを確実に覚え、安全な看護を提供できるよう努めます。

◀ 前列左より

奥山 伸子（手術室：甲府看護専門学校）

～患者様に「有難う」と言われる看護師を心がけ成長していきたい。

上笹香緒里（2-4A 病棟：甲府看護専門学校）

～一期一会、踏み出す一歩を大切に心温かい看護師になります。

古屋 茜（2-3 病棟：富士吉田市立看護専門学校）

～笑顔絶やさず、患者様に寄り添った看護を行います。



ご意見、自主投稿をお待ちしています。次号は平成21年11月発行の予定です。